

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

今年の3.11は、各ベースでは、どのように過ごしたのでしょうか。それぞれのベースの担当者が、その様子をご紹介くださいました。カリタス南相馬では、日本山妙法寺の主催で行われる「命の行進」に参加し、小高山同慶寺での「諸宗教合同慰霊法要」で、共に祈りを捧げました。カリタス南三陸は、サンオーレ袖浜と震災祈念公園でスタッフだけで静かに祈りました。カリタス大船渡ベースでは、カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）が企画したネット配信での「祈りのつどい」の映像を見ながら祈りました。また、津波被災者であるカリタス石巻ベーススタッフが、忘れることの出来ない3.11の体験を書いてくださいました。ぜひ、皆さまに読んでいただきたいと思います。

最後に、仙台教区義援金受付終了について、「新しい創造」第5期計画の一部をお知らせいたします。

あの日から9年

カリタス南相馬 所長 南原 摩利

命の行進に参加した3月10日

2011年3月11日から9年が経ちました。カリタス南相馬では、5年ほど前からこの時期に日本山妙法寺が主催する「命の行進」に参加させていただいています。

3月1日に猪苗代湖畔を出発し、二本松、飯館村、原ノ町と祈りながら歩いて行進。カリタス南相馬からは、3月10日の日程となっている小高山同慶寺から浪江町請戸までの行進に参加。朝8時に小高山同慶寺を出発し、太鼓の響きと共に南無妙法蓮華経が唱えられる中、私たちは口ザリオの祈りを捧げながら行進に参加しました。

小雨の降る中、浪江町までの約15kmの道のりを歩き、慰霊碑のある場所では、一人一人線香をあげ、祈りを捧げました。

この「命の行進」は、社会の閉塞感、生きづらさに危機感を持ち、歩き始めたとのことですが、東日本大震災後は、慰霊と非核の思いを強く持ち、歩くようになったということです。5年前に初めて参加した時と比較すると、被災地の風景は明らかに変化していました。倒壊した家や瓦礫などは無くなり、整備された場所が増えていますが、解体して更地になった空き地が増え、海岸沿いも7m程の高い防波堤が続き、海が見えなくなってしまった場所がほとんどで、とても寂しく感じました。最後まで参加できませんでしたが、約3時間半の間、行進に参加された皆様と共に被災地を祈りながら歩くことができ感謝の思いでした。



諸宗教合同慰霊法要に参加した3月11日

3月11日は、同慶寺で行われた「諸宗教合同慰霊法要」に参加しました。テーマは、「母なる地球と全ての生きものたちへの祈り 2020」。命の行進に参加された方や、同慶寺の檀家の皆様、そしてカリタス南相馬から幸田和生司教、シスター、スタッフが参加し、総勢30人程が祈りのひと時を共にしました。参加したそれぞれの宗派ごとに祈りの言葉、舞い、歌などを捧げた後、14時46分までの数分は、沈黙のうちに心合わせて祈りを捧げました。私たちカリタス南相馬は、犠牲者を追悼し、復興を願う祈りとして、テゼの歌、主の祈り、東日本大震災被災者のための祈り、を共に捧げました。

南相馬市においても新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、さまざまなイベントが中止となり、市の追悼慰霊行事も遺族の方と来賓の方のみと縮小され、一般市民は参加できませんでした。そんな中、命の行進、諸宗教合同慰霊法要という形で祈りはそれぞれ違っても、

宗教の壁を超えて共に一致して追悼の祈りを捧げることができ、感謝の思いでした。



合同慰霊法要が終わった後は、援助マリア修道会のシスターの案内で、津波被害の大きかった村上海岸にある慰霊碑に向かい、祈りを捧げました。シスター方は、毎月11日の月命日に、この村上地区の慰霊碑を訪れ、祈りを捧げておられるそうです。慰霊碑からさらに歩いて貴布根神社の跡地を初めて訪れましたが、9年を経た今も地震で倒れたまま荒れ果てている状況を見て、この集落における亡くなられた被災者の多さを改めて感じ、胸が痛みました。また高台の途中で花束を抱え、海を見下ろしているご家族がおられたので、ご家族の心中を



思い、静かに心の中で祈りを捧げました。

東日本大震災発災後、10年目となる節目にあって私たちは「すべてのいのちを守るため」に何ができるのか共に考え祈り続けなければと、思いを新たにしたい一日でした。

暗闇の津波の中に消えていったたくさんの命

カリタス石巻ベース 佐藤 さだ子

3月11日、この日が近づくと私の心はザワザワと動き出して、夜の暗闇の中にポツン、ポツンと消えていったたくさんの命を思い出します。「助けてえ」という叫びを思い出した時に、ただただ祈る時を過ごしてきた。

2011年3月11日、宮城県石巻市の海から約600mのところに住むその日は、昼ご飯を主人と終え、東松島市に住む小学4年生の孫の手伝いに行く準備をしていた。孫の帰宅時に間に合うように、鶏のから揚げを作っていたら、「おばあちゃん、友達の家遊びに行ってもいい？」と孫から電話が入った。いつもより早い帰宅だ。孫と話をしている最中に、グラグラとあの大きな地震がきた。「麻帆、麻帆」と呼んでも電話が切れて通じない。私は不安になり、主人に「家のことは大丈夫だから、すぐに麻帆のところに行って」と頼み、主人は車で出かけたが、ほどなくして、「道路が渋滞して車が動かない」と言っ

て戻ってきた。再度、主人が自転車で出かけたあと、大変なことが起きているんだなあと感じ、孫のことが心配になった。この時、私は津波が来るとは全く思いもせず、まして防災無線やサイレンも聞こえなかった。後で、故障と知ったのだが。



2011.3.13 水浸しの道路を歩く自衛隊員たち

庭に押し流されてきた車や建物

近所に住む体の不自由な方の見回りを終えて、自宅に着くとすぐに居間のガラス戸を思いっきり開けて、逃げ道を作った。割れたガラス類の片づけをして何分もしないうちに、さっきまで明るかった空が突然暗くなって、大粒のあられが降り、吹雪となった。変な天気で、不気味だなと思って庭先を見たら、「カサカサ。ゴソゴソ」と枯れ葉がこすれるような変な音がした。突然、庭の前にあるアパートの間から、真っ黒くて高い水が一瞬にして、庭に入ってくるのが見えた。「あっ。これはまずい。津波だ！」と分かり、5、6歩先に置いた帽子と懐中電灯を取ろうとしたが、「水にのまれてしまう」と、とっさに止め、目の前に置いておいたラジオと長靴を慌てて手に持って、2階に駆け上がった。その間4～5秒。間一髪で難を逃れた。

1階では、ガラス戸を破り、家の中をグルグルと出口を求めて津波が暴れまくっている。まるでミキサーの上に乗っかっているようだった。慌てて2階の押し入れに逃げても、水がどんどん高くなってきている。もっと上に逃げようと、書棚を足場にして、天袋に潜りこんだ。



天井近くまで水に浸かった台所

畳は持ち上がり、家具は倒れて泥だらけの部屋

暗くなるにつれて喉が異常に渇いてきた。「水が飲みたい！」屋根に積もった雪を食べてしのいだ。そして、津波の静けさの中で、あちこちから「助けて～」「誰か助けてくれ」と、何度も女性や男性の声が聞こえた。子どもの声で「水が冷たいよう～」という声が本当に辛かった。水の中なので、私にはどうしようもなく、声のする方を見て、ただ祈ることしか出来なかった。三日間、一人で闇夜を過ごしたが、ラジオを聞いて、情報を得ることの大切さを痛感した。恐怖心の中、いつの間にか「ガールスカウトソング」を歌っていて、仲間というようで心強かった。

また、後に知ったのだが、孫は、台所のテーブルの下にもぐり無事だったが、恐怖から玄関先で大きな声で泣いているのを、隣に住む奥様に助けていただいたとのこと。面倒を見てくださった隣の奥様のご厚意が本当にうれしかった。孫宅も、大規模半壊であった。



カリタス石巻ベースのスタッフ（左端が、佐藤さだ子さん）

いま碧き海に祈る

カリタス南三陸 千葉 道生

今年は新型コロナウイルスの影響により、ボランティア受け入れが休止となったため、職員だけで静かな歌津の長須賀海岸へ向かうと、防潮堤工事で砂浜が無くなっていました。漁師さんの作業場からも海は見えなくなっており、あまりの景色の変化に驚きました。震災後からこちらの海岸で黙祷をすることが多かったのですが、もう出来なくなっていました。

気持ちを切り替え、志津川の海水浴場サンオーレ袖浜へ向かうと多くの車が駐車してあったので、少し離れた場所に停めて砂浜まで歩きました。今年は追悼式中中止になったため、町長の言葉もなく14時46分になると突然サイレンが鳴り始めました。私たちは震災で亡くなられた方や行方不明になっている方々のために復興と鎮魂の願いを込めて手を合わせました。海に献花し帰ろうとすると、申し込みをキャンセルさせていただいたリピーターのボランティアさんが埼玉から日帰りに来ていたらしく、挨拶に来てくれました。「とにかく来てみました。また受け入れが始まったら来ます」とおっしゃって帰って行かれました。



袖浜海岸で祈りを捧げるベーススタッフ

震災祈念公園には多くの方が訪れており、報道陣もたくさん来ていました。園内の祈りの丘には、犠牲になられた方々の「名簿安置の碑」があり、地元の方のメッセージが刻まれています。「いま碧き海に祈る 愛するあなた 安らかなれと」

震災から10年という節目の年に入りました。当たり前のように感謝を忘れずに暮らしていきたいと思います。



写真上：南三陸町 震災記念公園「祈りの丘」



写真右：祈りの丘に設けられている「名簿安置の碑」

震災から9年、大船渡の3月11日

カリタス大船渡ベース 大河内 愛

「申し訳ありませんが、本音です。静かに鎮魂の祈りがやっとできます」と語ったのは、仮設住宅にお住まいの時から現在も継続して、さまざまなイベントやボランティアを積極的に受け入れ、コーディネートなさっている方です。

津波後、「静かに祈りたい」という気持ちを抱きつつも、遠方から励ましに来てくださる方々への感謝の気持ちが先に立ち、3月11日は多くの方々と共に過ごして来られたのだと思いました。

とても静かな3・11

カリタス釜石 伊瀬 聖子

今年の3月11日は大船渡市の追悼式典は中止となり、13時30分から19時までの間、献花と記帳ができるよう、会場のリアスホールのステージ上に花が飾られ、献花台が設けられました。ベース長が13時30分に会場に行きました。まだ来訪者は少なく、丁寧に献花することができました。地域の新聞によると、好きな時間に訪れることができ、ゆっくりお祈りすることができて良かったという声がありました。

カリタス大船渡ベースでは、3月11日前後に来訪予定だった、元スタッフのシスター方や馴染みの深いボランティアさんの来訪のキャンセルが相次ぎました。大船渡教会では3月11日には大阪教区の酒井俊弘司教による追悼ミサ、15日には同教区のヨゼフ・アベイヤ司教によるミサと黙想会が中止となりました。



シンボルであるセメント工場が見える大船渡市の風景

震災時、多くの人が石段を上げて避難した加茂神社

大船渡教会は津波で納骨堂が流されました。安置されていた11人のほか、津波で5人の方が亡くなられ、毎年、その方々のために祈り、ご焼香します。今年は、お二人の信者さんがその用意をされ、来訪者を迎える準備をなさいましたが、どなたもお見えになりませんでしたので、教会にいた3人の信者さんで黙祷を捧げました。

14時46分に市のサイレンとお寺の鐘と教会の鐘が一斉に鳴り響き渡りました。

カリタス大船渡ベースでは、新型コロナウイルスの影響により、サロン活動・イベントを中止しています。近所の方がふらりとベースをのぞき、ホールに入られました。スタッフが椅子カバーを作っているのを見て、手伝ってくださいました。

また、午前中に独居高齢者から不用品をクリーンセンターに運びたいと依頼があり、午後一番に出掛けました。その方を家まで送り届けてベースに戻ると14時46分に間に合わないように思い、その方を連れてベースに戻りました。

CTVCが配信した「思いつづける3.11～犠牲者・被災者・避難者のために祈るつどい～」をホールにいた地域の方とスタッフで見ました。東京のカテドラルのミサで奉納される予定の奉納品の紹介があり、その後、黙祷を捧げました。菊地功大司教の話を皆さんと拝聴しました。お話が終わった瞬間、近所の方が「ここへ来て、いがったあ～」と大きな声でおっしゃいました。

その後のお茶っこでは、地域の方々から震災当日のお話を聴いたり、いつもの通り、冗談を言い合って笑いました。3月からサロンを中止して以来、カリタスに人が訪れ話に花が咲くのが久し振りでうれしかったです。この日を1人で過ごすのを心細く思われた方々と共に過ごすことができ「これぞカリタスだ」と改めて感じました。



2020年3月11日現在 大船渡市 元中心地の様子

今年の3・11は、新型コロナの影響で、集会等が出来ないことから、カリタス釜石ベースは、閉鎖しておりました。

私は、個人的にカトリック釜石教会の聖堂で黙祷しようと思い、姉を誘い、教会に来たところ、堀江節郎神父がいらっしゃり、3人でミサを捧げました。午後2時半頃、以前ベースでボランティアをしてくださり、現在は遠野市に移住した男性がミサに加わり、結局、4人でサイレンを聞いて黙祷しました。

今年はとても静かな3・11となりましたが、来年は震災から丸10年ですので、これまでのボランティアの皆さんにお声がけをして「テゼとミサ」をしたいと考えております。

仙台教区 東日本大震災義援金 受付終了

カトリック仙台司教区 東日本大震災復興支援「新しい創造」基本計画 第5期計画で、以下のとおりお知らせいたしました。仙台教区への義援金につきましては、2020年3月末日をもちまして、一区切りとさせていただきます。これまでの皆様からの多大なるご支援、ご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

なお、カリタスジャパンにおける支援金は、2021年3月末日まで受付をしておりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

郵便振替：00170-5-95979

加入者名：宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン

※東日本大震災復興支援のためとご明記ください。

カトリック仙台司教区 東日本大震災復興支援「新しい創造」基本計画 第5期計画 一部抜粋

V ありがとうございます

仙台教区では、たくさんの方々からの有形無形の支援をいただきました。衷心より御礼申し上げます。

無形の支援の代表的なものは祈りでした。さまざまな方々が、さまざまなところで、さまざまな時に祈りを捧げてくださいました。延べの時間にすればどれだけ膨大な時間が捧げられたのか、本当に尊い祈りでありました。そしてその祈りは未だ捧げ続けられていますし、これからも続けられていくことでしょう。

有形の支援は、仙台教区に寄せられた義援金であり、支援物資であり、さらには奉仕という形でのボランティア活動が挙げられます。そしてありがたいことに、義援金とボランティア活動は現在も続いております。ボランティア支援はこれからも続くことでしょう。義援金は2011年3月11日以来、3月14日を始まりとし、2019年8月（現在）、延べ件数は4,700件を超え、総額873,414,159円という大きな額になりました。世界各国の小さな団体や個人の方、そして教会関係の方々、日本国中の各教区、各小教区、さまざまな団体、そして個人に至るまで、さまざまな方々が、お一人お一人の貴重なお志を義援金に変えて送ってくださいました。仙台教区では皆さまからの心のこもった義援金をお志に沿った形で大切にに使わせていただいております。

今回の第5期計画を発表するにあたり、義援金につきましては、2020年3月末日をもちまして一区切りとさせていただきます。その際には、義援金の使途や金額の詳細、今後の使い道について、皆様にお示しできればと思います。

東日本大震災、原発の爆発事故以来、日本の国では新たな自然災害が毎年のように起こります。そのたびごとに、「谷間に置かれた方々」が必ずいることを私たちは知っています。皆さまの尊く厚い思いとお志がどのような時もどのようなところでも「谷間に置かれた方々」とあることを祈りつつ！